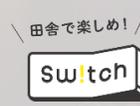
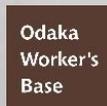




# 福島★復興グランプリ

## 開催報告レポート

2023年12月 経済産業省 福島復興推進グループ



## はじめに

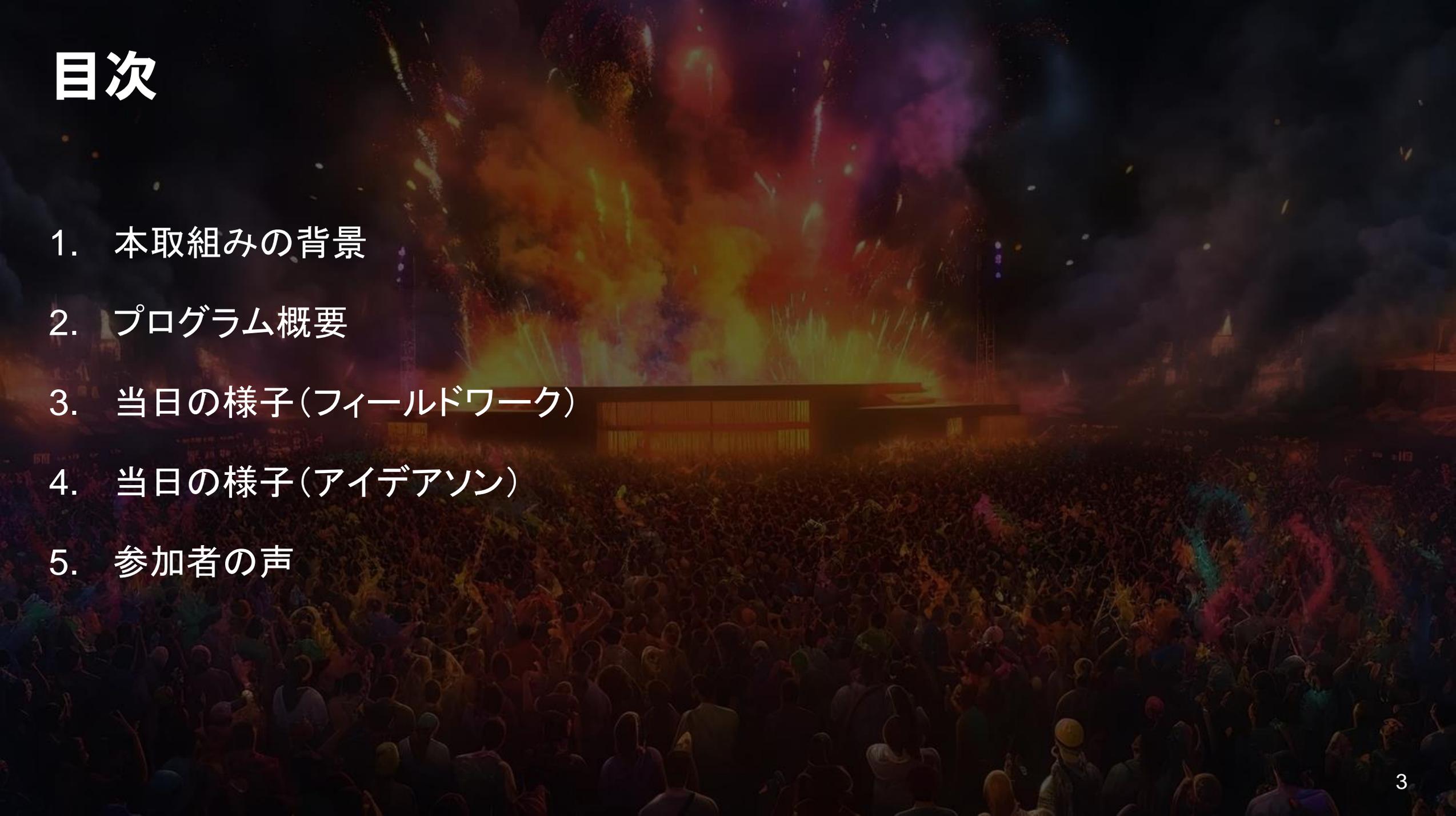
福島第一原発の周辺地域では、去年まで居住人口がゼロだった町もあり、今もなお多くの社会課題を抱えています。

一方でこうした地域を、社会課題先進地域やフロンティアと捉え、ゼロからのまちづくりにチャレンジする起業家も増えてきました。

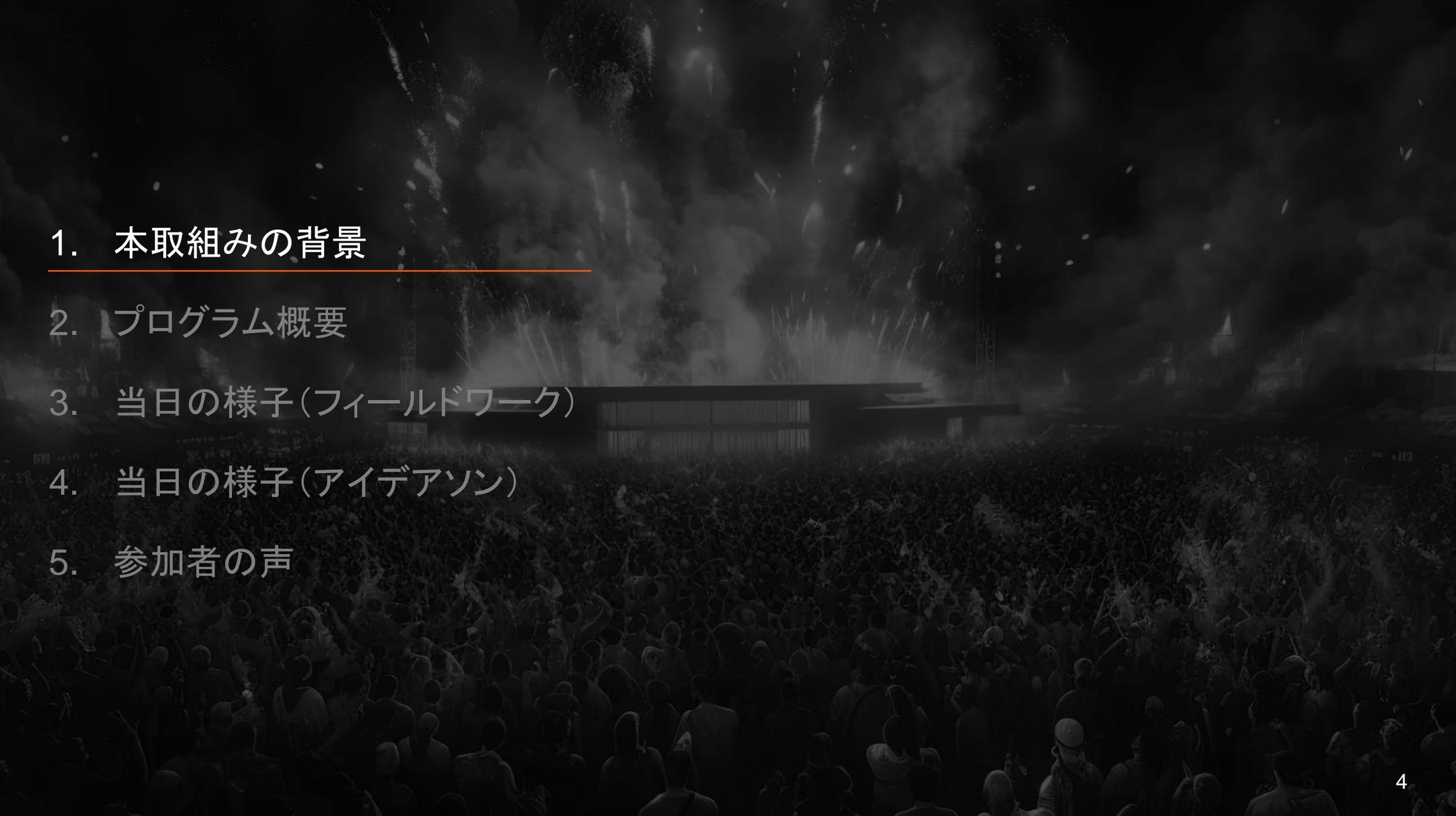
こうした動きを加速させるべく、経済産業省では2022年度から、地方での事業立ち上げに関心のある方々と福島を巡り、新たな事業の種を生み出す「福島★復興グランプリ」を開始しました。

(イベントWebページ: <https://www.fukko-grandprix.com/>)

# 目次

A large crowd of people is gathered at night, looking towards a bright, colorful fire or explosion in the background. The fire is a mix of orange, yellow, and purple, with sparks and smoke rising into the dark sky. The crowd is dense, and many people are holding up their phones to capture the scene. The overall atmosphere is one of excitement and awe.

1. 本取組みの背景
2. プログラム概要
3. 当日の様子(フィールドワーク)
4. 当日の様子(アイデアソン)
5. 参加者の声



# 1. 本取組みの背景

---

## 2. プログラム概要

## 3. 当日の様子(フィールドワーク)

## 4. 当日の様子(アイデアソン)

## 5. 参加者の声

# フィールドは福島県「被災12市町村」

## 被災12市町村とは？

- ✓ 原発事故の影響で避難を余儀なくされた12の市町村
- ✓ 人口がゼロになった町もある被災中心エリア
- ✓ 現在も住めない地域あり(東京23区の約半分の面積)
- ✓ 福島第一原発周辺の町は、2022年頃からまちづくり開始

(福島県地図)



# 被災12市町村の特徴

新たな事業を創出する起業家にとって、12市町村はチャレンジしやすい特徴を有している。

## 社会課題の先進地域



- 急速な人口減少(居住人口が10分の1になった地域もある)
- 一部地域は高齢化率50%超
- 空き家・空き地が数多く存在
- 生活環境インフラが未整備
- 産業や地域経済が発展途上  
...など、様々な課題に直面

## 事業を生みやすい環境



- 日本のフロンティアと言われるチャレンジングな環境
- 地域課題解決・新産業創出に向けた補助金・支援策が充実
- 廃炉・ロボット・エネルギー・農林水産・医療・航空宇宙分野のプロジェクト創出を国が支援
- 実証実験のフィールドが充実

## 多くの起業家が活躍



- ゼロからのまちづくりに挑む社会起業家が活躍
- テクノロジーで社会課題解決に挑むスタートアップも多数
- 大企業や地元企業と連携した実証実験プロジェクトも活発

# 開催背景

## 被災12市町村の状況

様々な課題を解決する  
事業創出が求められる



地域課題解決の担い手  
(企業、起業家)が必要



## 首都圏起業家などの声

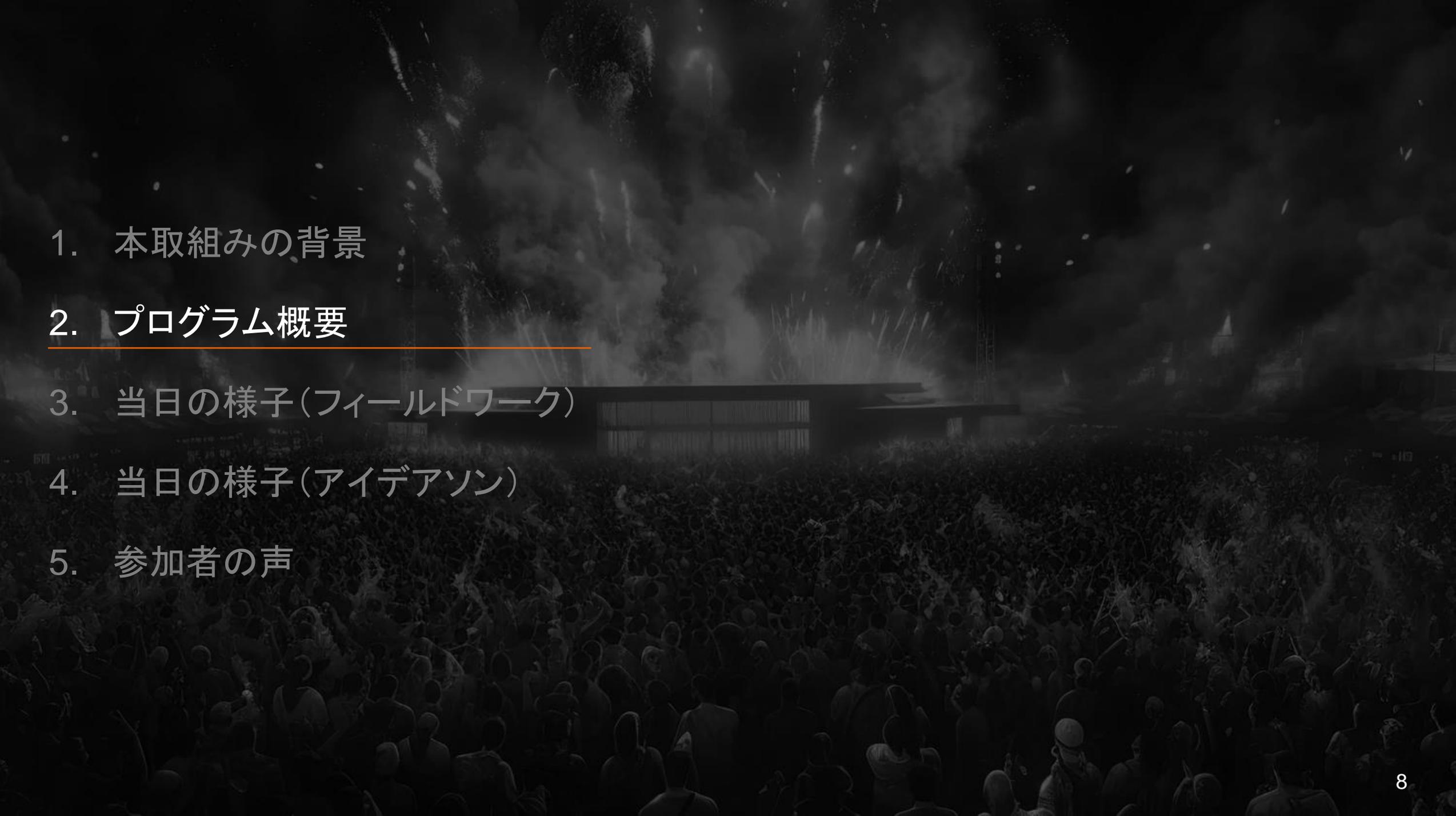


今の被災地を知りたい、  
何か力になりたい



魅力的な福島の社会起  
業家と繋がりを持ちたい

様々な社会課題を現地で体感し、地元起業家達との対話を通じて  
新たな事業や担い手を生み出す「福島★復興グランプリ」を開催



1. 本取組みの背景

2. プログラム概要

3. 当日の様子(フィールドワーク)

4. 当日の様子(アイデアソン)

5. 参加者の声

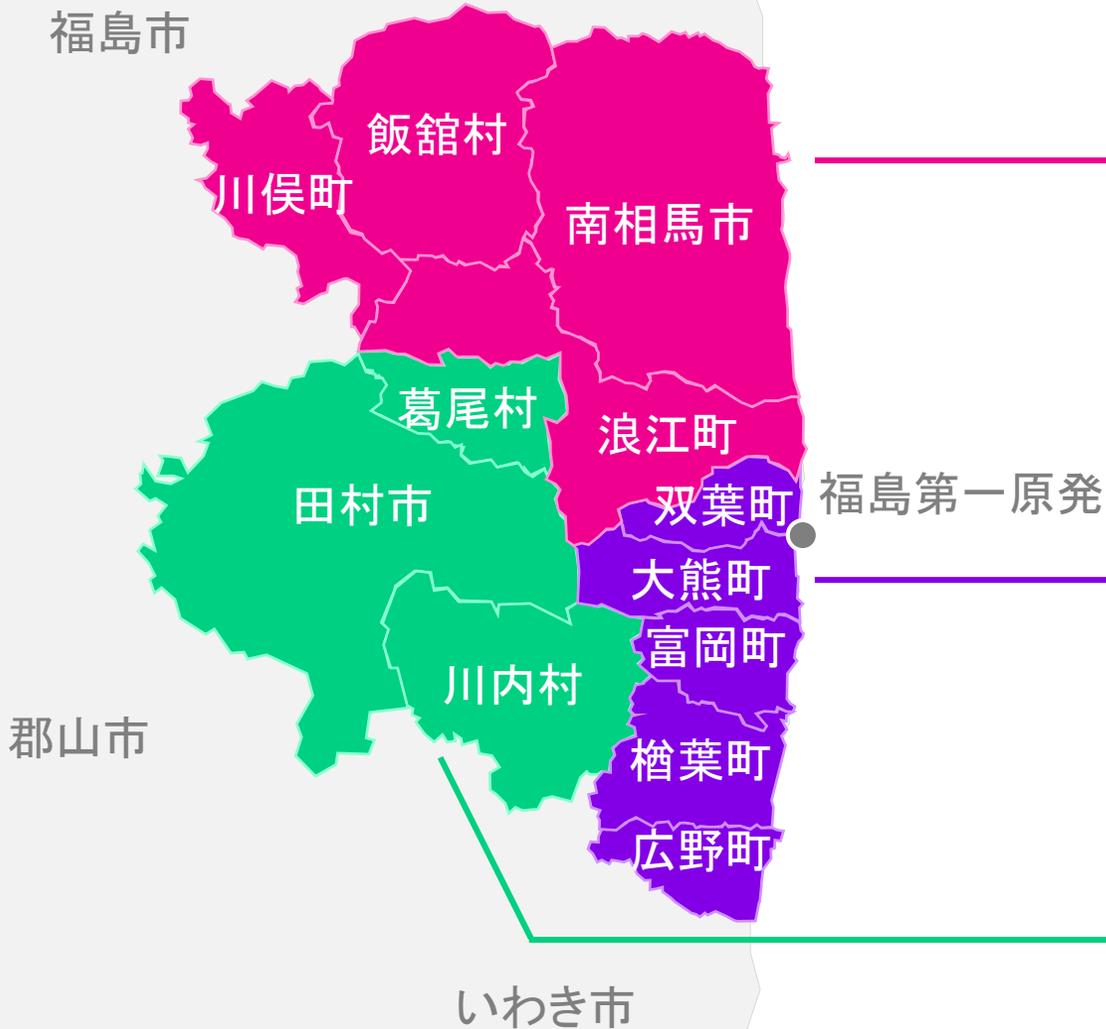
# プログラムの流れ

被災12市町村を3エリアに分けて巡り、3日目に全エリアが合流して事業アイデアを競う。



※上記は主な訪問先であり、実際はより多くの地域を巡っている

# 3エリアの概要



## **NORTHEリア** (参加者16名)

- 馬事文化の根付く相馬エリアが中心
- 「クラフト・アート」をテーマにアイデアを創出

## **SOUTHEリア** (参加者17名)

- 原発の立地する双葉エリアが中心
- 「テクノロジー」をテーマにアイデアを創出

## **WESTEリア** (参加者20名)

- 自然が豊かな阿武隈山地が中心
- 「自然・スポーツ」をテーマにアイデアを創出

※上記地図は主な訪問先であり、実際はより多くの地域を巡っている

# NORTHのフィールド

## 図図倉庫(ズットソーコ)



飯舘村のホームセンター跡地をリノベーション。環境再生や地域づくりをサイエンス/アート/クリーンテクノロジーなど様々な分野の視点から考える自由研究秘密基地。

## 道の駅なみえ



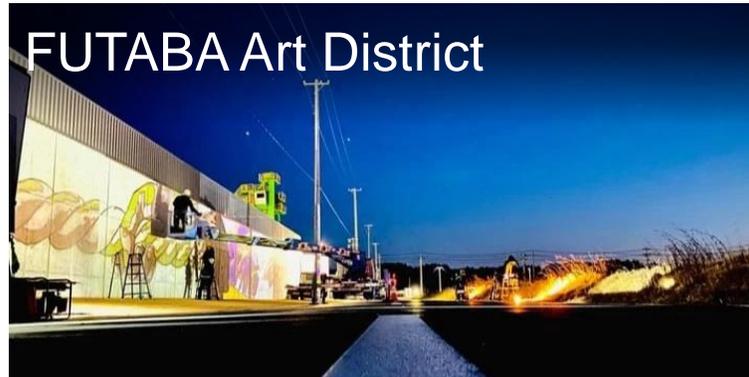
浪江町の復興のシンボルとして2021年3月20日にオープン。買い物もできて、食事もできて、休憩もできる、新たなチャレンジを支える場。

## 小高パイオニアヴィレッジ



南相馬市小高区のゲストハウス併設コワーキングスペース。震災被害により一度は人口がゼロになった街で、新たな地域づくりに挑む人々が活動中。ハンドメイドガラス工房「iriser」併設。

## FUTABA Art District



双葉町を壁画アートを使って盛り上げる試み。地元出身の飲食店経営者とウォールアートを専門で行う会社を中心となり、地元関係者を巻き込みながら町内に8点アート作品を残している。

## haccoba -Craft Sake Brewery-



2021年2月に誕生した酒蔵。「酒づくりをもっと自由に」という思いのもと、ジャンルの垣根を超えた自由な酒づくりを行う。日本酒にクラフトビールの製法を掛け合わせたお酒を展開。

## NPO法人インビジブル



アートを触媒にしたコミュニティ開発や人材育成事業に取り組む団体。原発被災地で、アーティストと児童が学校生活を共にする「PinSプロジェクト」など、様々なプロジェクトに取り組む。 11

# SOUTHのフィールド



## Jヴィレッジ

世界トップレベルの規模を誇る複合サッカー施設。震災で全面閉鎖していたが、2018年に再始動し、東京五輪では聖火リレーのスタート地点となった。※Westチームと合同視察



## とみおかワイン

日本で最も海と駅から近いワイナリーを核とした100年先の地域づくりプロジェクト。町民有志で始めた活動が現在は100名を超えるボランティアを集める場に。テクノロジー活用にも積極的。



## 株式会社ふたば

最新のセンシング機器やドローン技術を活かして地域課題解決に取り組む富岡町の測量・建設コンサルタント会社。活動領域は福島県内に留まらず、海外の課題解決にも積極的。



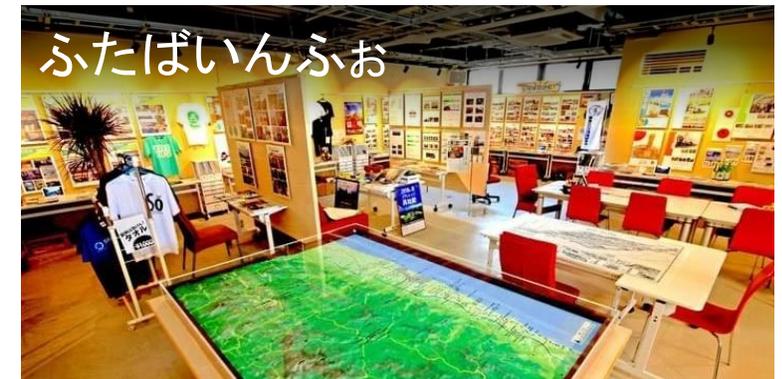
## 大熊インキュベーションセンター

大熊町の小学校が起業支援拠点として生まれ変わった施設。大熊町の地域課題解決に取り組むスタートアップや学生、クリエイター等が入居する。



## 東京電力廃炉資料館

原子力事故の記録や教訓、廃炉現場の最新状況等を発信するために東京電力が運営する資料館。豊富な展示等から原子力事故当時の状況、事故の教訓や廃炉進捗状況等を学べる。



## ふたばいんふお

被災12市町村のうち8町村が所属する「双葉郡」。そんな双葉郡の民間団体である双葉郡未来会議が開設した、双葉郡の総合インフォメーションセンター。双葉郡8町村の現状を概観できる。12

# WESTのフィールド



Jヴィレッジ  
世界トップレベルの規模を誇る複合サッカー施設。震災で全面閉鎖していたが、2018年に再始動し、東京五輪では聖火リレーのスタート地点となった。※Southチームと合同視察



かわうちワイン  
阿武隈の山々に囲まれた標高750メートルの高台に位置するワイナリー。ワイン事業を通じて地域の新たな食文化の探求と魅力創造を目的に様々なイベントや農業体験・学びの場を提供。



浜街道サイクリングロード  
12市町村を南北に貫く幹線道「広野小高線」の別称。特に第一原発と第二原発の間にある区間は海沿いを走るため、サイクリングやドライブに最適の絶景コース。  
出典: 福島県 まちづくり推進課



田村森林組合  
福島県は首都圏の木材需要の最大13%を供給してきた地域。特に田村市は市内の60%が森林に覆われる林業のまち。そんな林業のまちで木こり達を束ねているのが田村森林組合だ。



葛力創造舎(かつりょくそうぞうしゃ)  
葛力創造舎は、通常なら持続不可能と思われるような数百人単位の過疎の集落でも、人々が幸せに暮らしていける経済の仕組みを考え、そのための事業を実施していく団体。



テラス石森  
田村市における新たなビジネス・情報発信・働き方改革の拠点として、2018年に福島県初の複合型テレワークセンターとしてオープン。廃校となった旧石森小学校を活用。

# 本プログラムの実施体制

## 運営体制

主催



経済産業省

福島復興推進グループ

運営



PwCあらた有限責任監査法人

監修



一般社団法人INSPIRE

協力



公益社団法人  
福島相双復興推進機構  
(福島相双復興官民合同チーム)

福島相双復興推進機構

## 監修メンバー



フィールドワーク監修/事務局  
TETLA(同)  
野田 翔一郎



アイデアソン監修  
(社)INSPIRE  
谷中 修吾

## NORTHメンター



(株)小高ワーカーズベース  
和田 智行



NPO法人インビジブル  
林 暁甫



MARBLING, Inc.  
松本 奈々

## SOUTHメンター



ビジネスゲートウェイ(株)  
黒田 敦史



(社)HAMADOORI13  
吉田 学

## WESTメンター



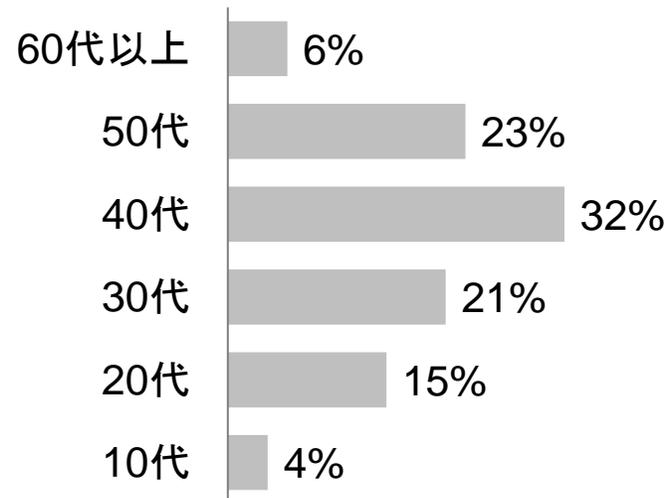
(社)葛力創造舎  
下枝 浩徳



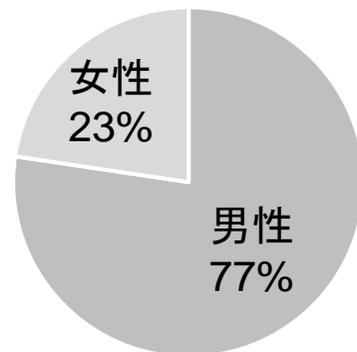
(社)Switch  
久保田 健一

# 参加者(53名)の内訳

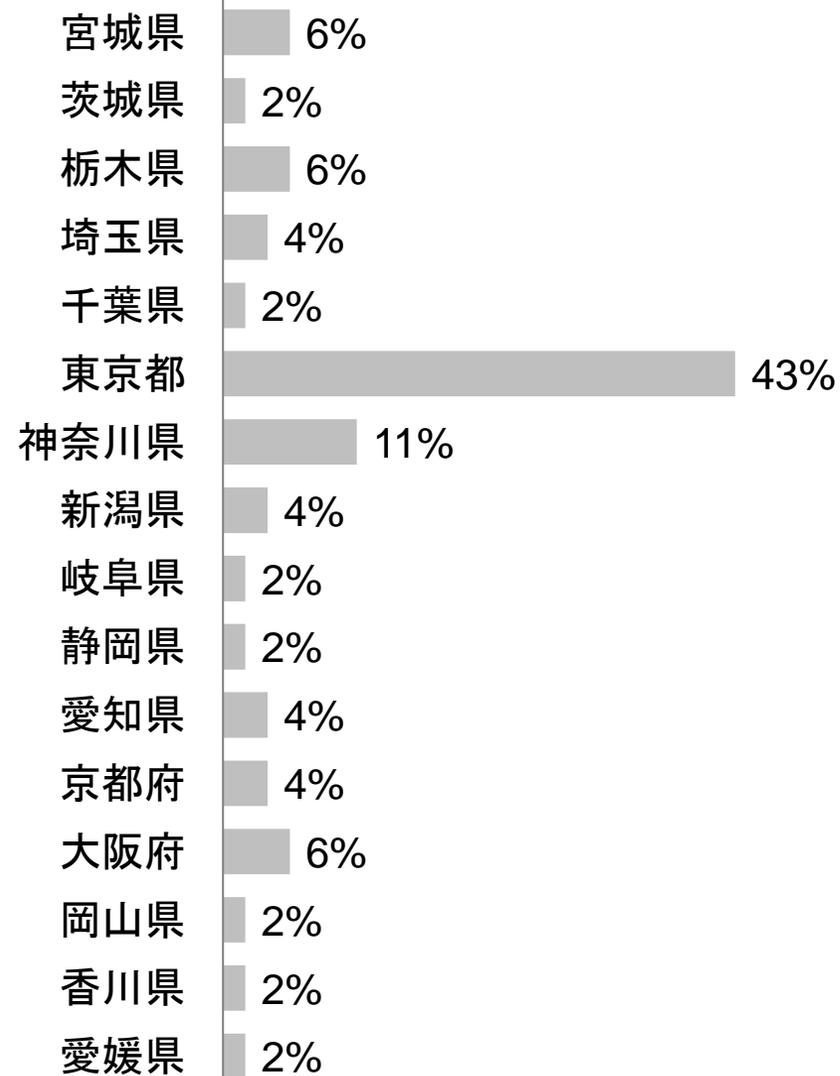
## 年代



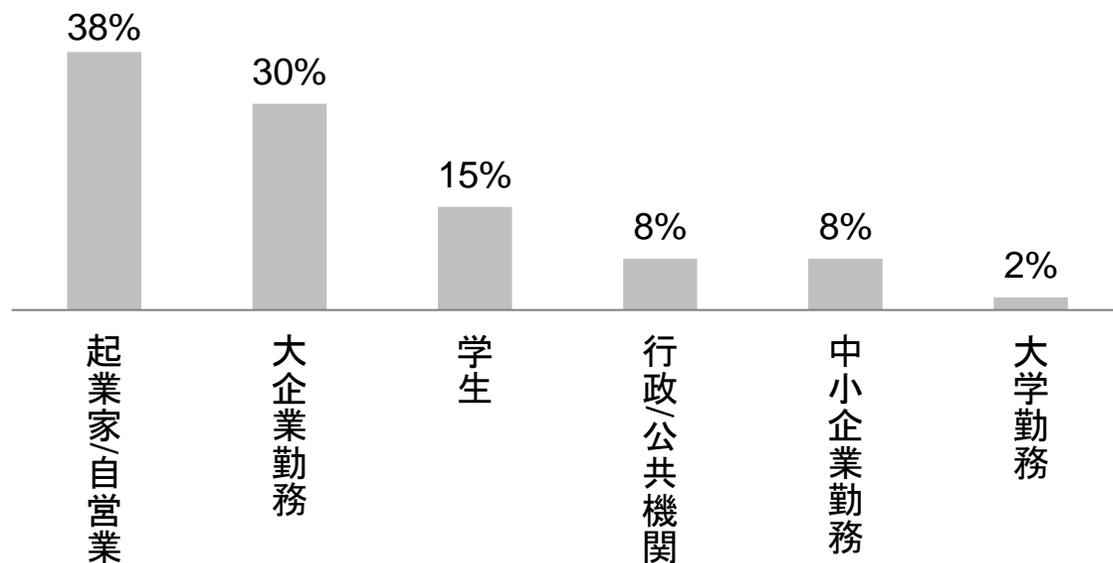
## 性別

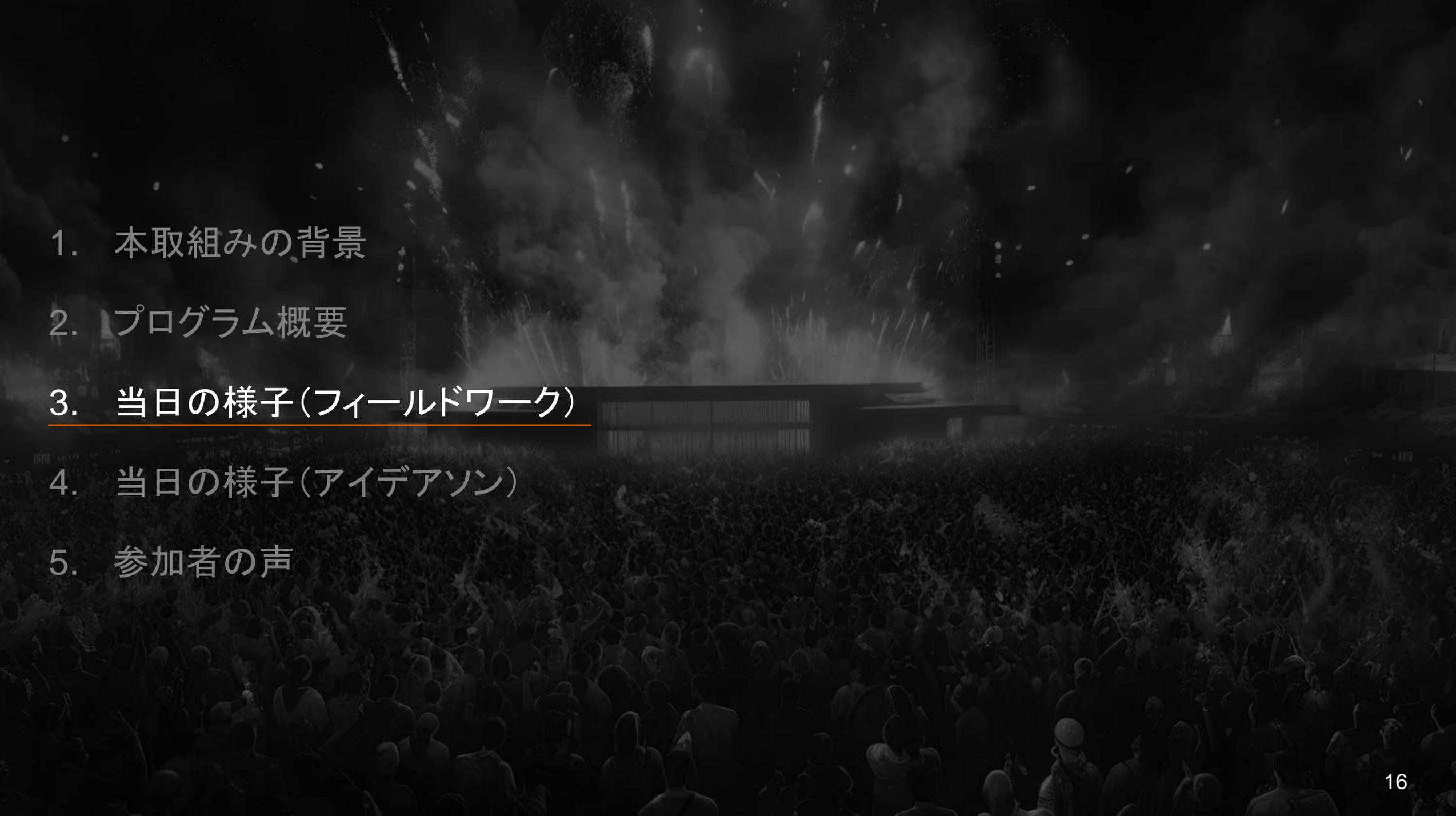


## 居住地



## 職業





1. 本取組みの背景

2. プログラム概要

3. 当日の様子(フィールドワーク)

4. 当日の様子(アイデアソン)

5. 参加者の声

# NORTHエリア

福島市

川俣町

飯舘村

南相馬市

葛尾村

浪江町

田村市

双葉町

福島第一原発

大熊町

富岡町

郡山市

川内村

楡葉町

広野町

いわき市

- ✓ 馬事文化の根付く相馬エリアが中心
- ✓ 「クラフト・アート」をテーマにアイデアを創出

# NORTHエリア Day1



福島市から飯舘村へ



いいたて村の「道の駅までい館」で地産品を購入



松本奈々さんから図図倉庫の紹介



小高駅前の散策



小高ワーカーズベース和田智行さんの取組紹介



haccoba -Craft Sake Brewery-での懇親会



# SOUTHエリア



✓ 原発の立地する双葉エリアが中心

✓ 「テクノロジー」をテーマにアイデアを創出

# SOUTHエリア Day1



# SOUTHエリア Day2



大熊インキュベーションセンターで  
黒田敦史さんの取組紹介



入居企業とのディスカッション  
(株式会社Oriai)



入居企業とのディスカッション  
(NPO法人コースター)



東京電力廃炉資料館の見学



双葉駅前の散策



夜の森公園の活用についてディスカッション

# WESTエリア



福島第一原発

- ✓ 自然が豊かな阿武隈山地が中心
- ✓ 「自然・スポーツ」をテーマにアイデアを創出

# WESTエリア Day1



Jヴィレッジ見学



双葉駅前を散策



葛尾村の遊休地を見学



葛尾村復興交流館あぜりあの散策



富岡町でSOUTHチームと合同BBQ



富岡町で二次会

# WESTエリア Day1



阿武隈山地のソウルフード「凍み餅」が朝食



かわうちワインで収穫体験



いわなの郷でランチ



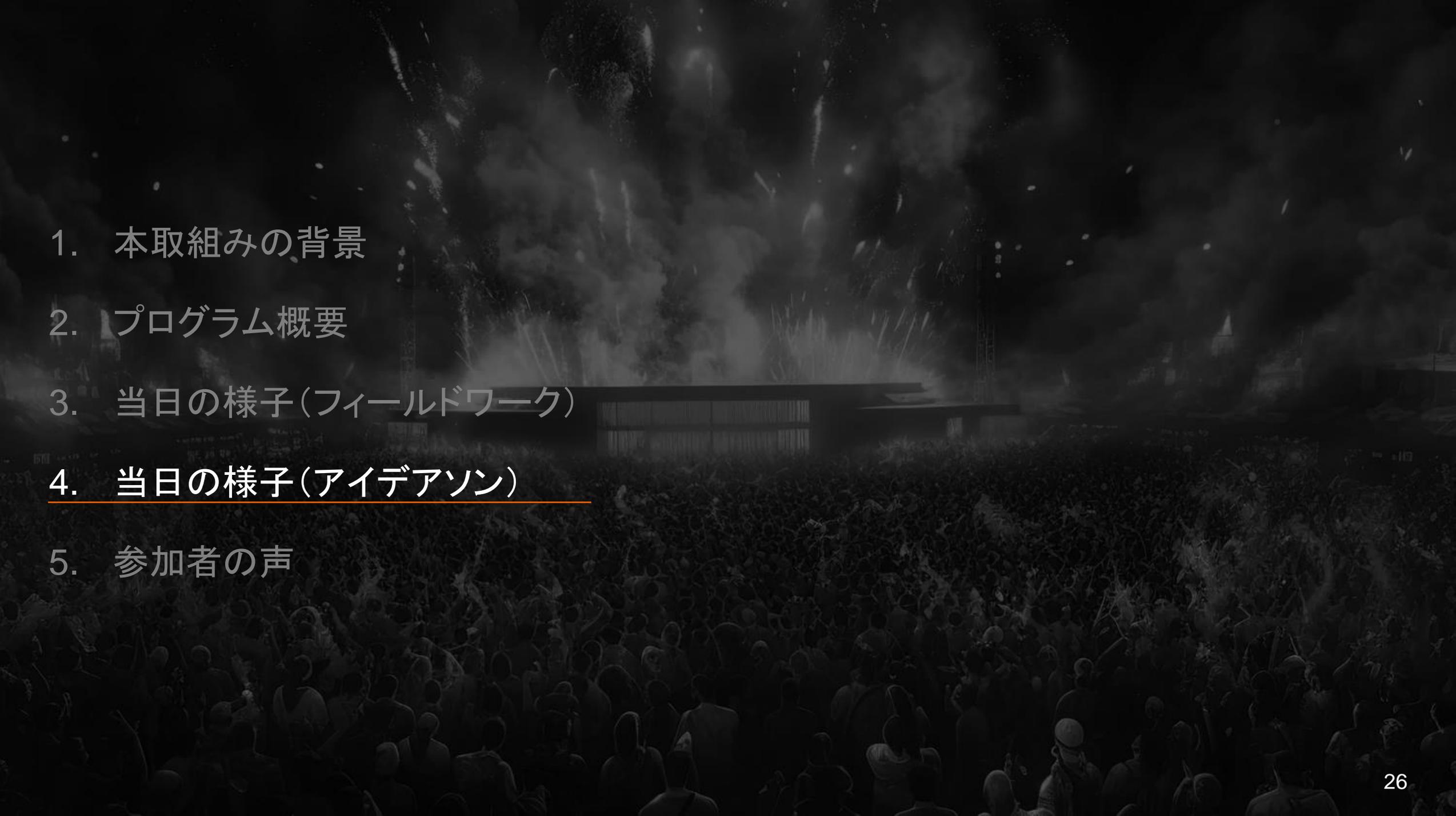
入水鍾乳洞のBコースを探検



田村森林組合の取組紹介



テラス石森で久保田健一さんの取組紹介

- 
1. 本取組みの背景
  2. プログラム概要
  3. 当日の様子(フィールドワーク)
  4. 当日の様子(アイデアソン)
  5. 参加者の声

# ALLエリア Day3 (前半)



# ALLエリア Day3 (後半)



各チームからプレゼンテーション



審査・セレモニー



各エリアでグランプリチームを発表



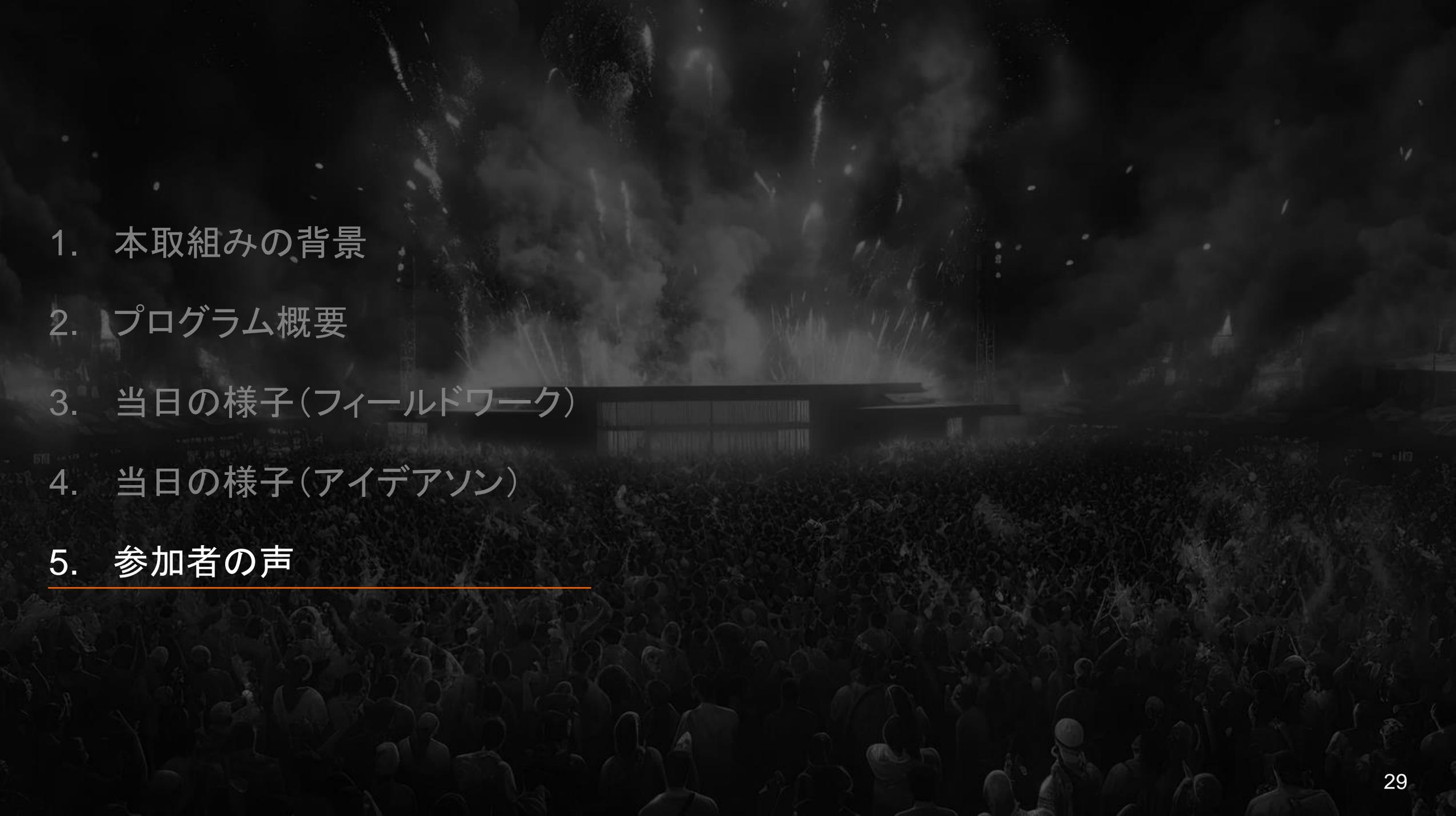
アワード授賞式



最後に昨年参加者達からの激励コメント



交流会

- 
1. 本取組みの背景
  2. プログラム概要
  3. 当日の様子(フィールドワーク)
  4. 当日の様子(アイデアソン)
  5. 参加者の声

# 「現地の起業家や経営者に刺激を受けた」

フィードワークの全体構成で地元で事業を行っている方の生の話を伺う機会が多数あったことが非常に勉強になりました。被災12市町村に対する解像度が非常に高くなりました。

東京都の20代女性(大企業勤務)

現地で復興に携わる方々の生の声を聞くことができ、いろいろ考えさせられた。人生観が変わった気がする。

大阪府の50代男性(中小企業勤務)

「起業」なんて遠い事のように思っていた自分ですが、福島に関わる以上、その覚悟が必要だけど、そのハードルは、自分の考え次第で高くもなり、低くもなる。と思わせてくれた。

神奈川県50代女性(起業家/自営業)

とみおかワインの遠藤さんの話が記憶に残っている。地方創生とか復興とか大きな課題を一步ずつ実践していく話を伺い、リアルなものがどんなものかを体感することができた。

東京都の30代男性(大企業勤務)

サポート頂いたテラス石森の久保田さん達から地域のために貢献する本気の姿勢を学びました。今まで自分が口にしていた地方創生のため、の言葉を軽く感じてしまいます。

神奈川県60代以上男性(大企業勤務)

haccobaの佐藤さんはクラフトサケの醸造以外に新電力事業も行っているが、その理由は醸造において電力をたくさん使ってしまうので、何かの形で環境負荷を下げることに貢献したいから、とのこと。非常に面白い、問題点に目を背けることなく、何らかの形で解決しようとしている点に共感&感動した。

東京都の40代男性(起業家/自営業)

# 「地域の課題や可能性を体感できた」

被災地域の現状を直に見れたのは、ネットなどで見るよりもとても意味がありました。また地域の方たちとの交流ができたのは、被災地で事業展開したい私にとって大きな収穫になりました。

東京都の40代男性(起業家/自営業)

事前のインプットもあり、3日間のフィールドワークを通じて福島県浜通りの解像度が非常に高まり、引き続き何かで関わり続けたいと思えるようになったこと

神奈川県の30代男性(起業家/自営業)

大熊インキュベーションセンターの黒田さんのお話しが伺えたことが良かった。大熊町の現状と課題を聞いたこと、大熊町が産業を活性化させる時にどの位置付けで考えられているのか伺えた。

愛知県の30代男性(起業家/自営業)

入水鍾乳洞Bコースがすごい。鍾乳洞の概念を覆された体験だった。

岐阜県の20代男性(学生)

川内村ワイナリー見学が良かった。ワインが好きだがワイナリーの見学をしたことがなかった。福島のワインが復興とあわせて山梨や北海道などと並んでブランド化されることを強く願っています。

大阪府の50代男性(中小企業勤務)

海岸で寝転んだことが記憶に残っている。原発が見える浜で震災後時が経ち不安なく寝転がれるってすごいことだなと。

東京都の50代女性(起業家/自営業)

# 「普段は出会えない参加者と濃いつながりができた」

参加者は皆さん志の高い方ばかりで、その方達と友達になれたのも、一生物の財産です。ご縁ができたのはとても大きな収穫です。

東京都の40代男性(起業家/自営業)

年代、バックグラウンドも様々な方と2泊3日を過ごすことができ、社外人脈を持てたことが何よりの財産。

東京都の20代女性(大企業勤務)

多様なバックグラウンドの方々(こんなに他業種の方とアイデアを出しあう機会はありません)との交流による自分には無かった発想の発見があった

大阪府の40代男性(起業家/自営業)

飲み会の時間がゆっくり取れるようになっていたのは、非常にありがたかった。チームごとに分かれるのも、短時間に特定の人と仲良くなるには良い方法で、ありがたいと思った。参加者のFacebookチームを事前に作っていただいたのも、メンバー間交流の助けになって良いです。

東京都の20代女性(大企業勤務)

1日目の夜の散歩が記憶に残っている。グループの仲が深まった。誰がどんな人でどんなことが得意で何をしているかをよく知れた。

宮城県の10代女性(学生)

起業家、旅館の人、NORTHエリアのアートな人々との出会いに大変満足している。

東京都の40代男性(起業家/自営業)

# 「新たな視点で考える機会が得られた」

事前の思考インストールで、どのような考え方が求められているのかがはっきりしていたので、事業構想の方向性をメンバー間で調整するときにぶれが少なかった。

東京都の20代女性(大企業勤務)

事前オンラインセッションとフィールドワークの問題提起からのグループワーク、発表でアイデアをかたちにする流れが良かった。

東京都の40代男性(起業家/自営業)

富岡小中学での林さんのお話。復興で別に頑張らなくて良い。我慢もしなくていい。みたいな内容のお話しをされていて肩をはずらせずに出来る事やっけて行こうとふっと肩の荷が降りた様な気になりました。とても素敵なお話だと思えます。

東京都の40代男性(起業家/自営業)

フィールドワークでの訪問先の数も大変多く、また内容も大変充実していました。バランスも取れていました。突き抜けたアイデアからスタートする考え方！をした事ありませんでした。

宮城県の10代女性(学生)

私自身が川内村出身ということで、慣れ親しんだ場所で自分の中では環境が「そうゆうもの」という感覚でいたのに対し、周囲の反応は「何にもない、こんなじゃ何もできない」という意見が圧倒的多数で始まった1日目でしたが、3日目には当初あれだけ「無理」と言っていた人たちが自分たちの得意を活かして様々なアイデアを出している所を見て、諦める必要ぜんぜん無いなと感じたのが特に大きな収穫でした。

東京都の30代男性(大企業勤務)

## 福島★復興グランプリ 開催報告レポート

---

本事業に関する問い合わせ先

〒100-8901 東京都千代田区霞が関1-3-1

経済産業省 大臣官房福島復興推進グループ  
福島事業・なりわい再建支援室

TEL:03-3501-1356

本プログラムは、令和5年度「地域経済政策推進事業委託費(福島相双地域における創業等支援体制整備事業)」の一環として実施しています。